令和２年度

五小のあたりまえ
～学習編～
授業改善推進プラン

東大和市立第五小学校

はじめに

1. 作成のねらい

五小の子供たちに“自ら学ぶ力”を身に付けさせるため、指導の共通理解を全教職員で図ります。

2. 作成の背景と実態

五小の子供たちは素直で一生懸命学習に取り組みます。しかも、その割合は年々増えています。

その反面、様々なことに興味をもち、自分で考えて学習することは苦手です。

「自ら考えて学習する力」＝“自ら学ぶ力”を、「五小ではこう育てていく」という指導事項を明確にして進めていきます。

そのためにも、全教職員で学年ごとの指導についての共通理解を図り、6年間かけて育て伸ばし、“自ら学ぶ力”を身に付けさせることが必要です。

その指導方法をまとめたのが、この「五小のあたりまえ～学習編～」です。

3. 内容と構成

①全学年で共通して取り組むこと（対話的な学びの土台づくり）

②各教科の学習過程（学習の型・方法、問題解決的な学習の進め方）

②学習技能

③その他

4. 補足

①「学習過程」と「学習技能」は、五小の教職員で大切にしたい内容を吟味して作成しました。

「学習過程」は、「一般的な流れ」であり、どの単元にも当てはまるものではありません。

②「学習技能」は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」等が混在しています。

「知識・技能」は、特に「この学年でこれだけは最低限身に付けさせたい！」という内容と、身に付けさせるための方法を明記しました。

③「その他」には、「理科(実験)や体育での服装やマナー及びルール」等の細かな内容も含みます。

5. お願い

今年度は、あくまでも「試案」です。

学期ごとに振り返り、実態に適さない内容は、どんどん修正していきたいと思います。

保護者のみなさまの忌憚のないご意見も随時聞かせていただきたいと思っています。

学年共通で取り組みたいこと

1. 見通し

・「学習単元」の「学習計画」づくり

・「１時間」ごとの「予想」や「見通し」等の活動（予想の根拠も大切）

・「本時の終わり」に「次時の計画」や「予想」を立てさせることも「見通し」をもたせることにつながります。

2. 振り返り

・「１時間ごと」の終わりや「単元」の終わりに、「学習感想」だけでなく、「自分の追究はどうだったのか」の振り返りをさせ、自分の学びの深まりを自覚させます。

3. 話し合いの仕方（話型・つなぎ言葉）

教師が「似ている意見は？」「違う意見は？」などと誘導しなくても、出された意見に対して、「つないでいくんだ。自分たちで話し合いを（結論に向かって）進めていくんだ」という学習の主体者としての意識をもたせる。「つなぐ」ことと同時に、「結論に向かって話し合う」という話し合いの方向性も大切にします。

4. ペア・3人グループの話し合い　～コロナ禍での実践は慎重に～

２～４人程度の少人数グループの話し合いを日常的に行い、対話的な学びの素地をつくります。

5. 根拠を明確にして話す力

「～だと思います」「理由は～」「なぜなら～」との「話型」の指導から徐々に「自分の言葉」での説明ができるようにします。

6. 友達の意見に対して反応する力・吸収する力

「うんうん」「なるほど」などのあいづち・うなずきを価値化し、クラスに受容的な雰囲気を作ります。

7. つなぎ言葉

「〇〇くん・さんと似ていて～です」

「〇〇くん・さんと違って～と思います」

「〇〇くん・さんに付けたして～です」

「〇〇くん・さんの意見・考えを聞いて思ったけど」

「合っているかわからないけど～と思います」等の「つなぎ言葉」を大切にします。

8. 自由交流

席を離れて色々な友達と交流する活動ができるようにする。

真剣に取り組まなかったり、仲のよい友達とだけの交流になったりしないように配慮する。

「〇人以上と交流する」「男→女→男→女」「同じ考えの人(違う考えの人)を１人ずつ見つけなさい」等、「学びのねらい（広げる・深める)」に即したルールを決めて考えを広げられるようにします。